

や 広報たしろ

No. 306

昭和54年 3月 1日

田代町総務課編集

1,600部発行



梅の花の二輪咲きそめて
春寒さゆるみ、水ぬるむ

春近し

梅の花も散り、朝夕は寒さも少し残っていますが、異常気象と言われ日中は汗ばむ候となり桜もつばみをもち、日に日にふくらんでくるようです。

“つわ”も芽ぶき、あちこちでつわ取りが始まったと聞きました。三月二十一日「春分の日」は国民の祝日として、「自然をたえ、生物をいつくしむ」日とされています。自然にめぐまれている者は、その自然のありがたさ、重要さに気づかないものです。春になり、全てのものが生き生きと活動を始める今、もう一度回りに注意して下さい。

何か新しい事を発見することができるともかもしれません。

四月になると、新入学児童の通学も始まります。学校までの通学路や通学のしかたを子供達に今のうちからおしえておきましょう。

新一年生が通学しはじめるといよいよ春本番、いろいろといそがしい時期です。十分に準備をしておきましょう。

三月の行事予定

八日

百日ゼキ、ジフテリア

破傷風の予防接種

町婦人大会

九日

議会招集

十六日

ジフテリア第二期

十九日

中学校卒業式

二十二日

農村婦人特別健康診断（中尾、新田、盤山）

二十三日

小学校卒業式





ハーモニカ
おじさん

昭和四十七年五月一日から全国
の老人ホームをハーモニカ独

南松園を慰問

奏で訪問をされている「ハーモニカおじさん」こと福島秀治さんが、本町の特別養護老人ホーム南松園を二月十六日慰問にこられました。

福島さんは、昨年三月十六日にも慰問されており、今回の訪問を楽しみにしておられたようでした。

六本のハーモニカによる「七つの子」や「鯉のぼり」などなつかしい曲二十八曲を演奏され、ホームの老人の方々は、遠い昔のことを思い出されたのか、それぞれの顔に色々な想い出がうかんでいるようでした。

農業者年金に加入しましょう

このたび、農業者年金制度の一部改正が行われ、時効完成保険料の特例納付をすることができるようになりました。

保険料の時効との関係でもう加入はできないのかとあきらめていた当然加入資格のある経営主（大正五年一月～昭和十一年三月生まれの人）にとって二度と期待できない絶好の加入のチャンスです。

農業者年金の給付を受けるには、加入資格のある人が加入してから六十歳に達する月の前月までに保険料を一定期間以上納めることが必要です。

農業者年金の被保険者として加入できる人には、当然加入資格者と任意加入資格者とがあります。今回の措置により、これから加入の届出をして、時効によってすでに保険料を納めることができなくなっている期間について保険料（時効完成保険

料）の特例納付をすることができるとは、昭和五十一年六月三十日以前の期間について次の当然加入の資格要件をそなえている人で、まだ加入の手続をとっていない人です（大正五年以降に生まれた人ですでに六十歳をすぎた人も含まれます。）

このような人は、できるだけ早く農協の窓口で加入の手続等をとって下さい。

○加入資格者の要件

- 国民年金の被保険者であること
- 当然加入の資格要件をそなえた月から六十歳に達する月の前月まで被保険者期間等が二十年以上となる人であること
- 五十歳以上の農地等について名義がある経営主であること

加入の届出をして特例納付のできる期間は、

加入の届出をして時効完成保険料の特例納付をすることができるとは、昭和五十三年七月一日から昭和五十四年十二月末日までの一年半の間です。

この期間中に、農協の窓口で加入の手続をとり、特例納付をするともに、時効未完成の保険料についても納めることが必要です。

時効完成保険料の特例納付の

本町で四年間、住民の安全を守るため努めて下さいました。森園利寛巡査が二月の異動で種子島の方に転任されました。長い間、本町のため努力していただき、又、スポーツの振興にも御協力をいただきました。これからも、御健勝であられますようお願いいたします。



森園 巡査 転任

開発センター落成式

町民待望の開発センターがこのほど完成し54年度振興大会と合せて次のとおり行います。町民みなさんの御参加をお願い致します。

期 日 昭和54年3月24日
午前10時より
場 所 役場うら開発センター

郡民体育大会に向け行動開始

昭和五十四年度第十七回肝属郡民体育大会が本町で七月二十二日挙行されますが、それに向かってこのたび運営委員及び選手強化責任者が委嘱されました。十年に一度回ってくる大会主催地として、本大会を成功させ、好成績を残すため委員の方々に期待し、町民各位の自覚と御協力をお願いいたします。

尚、委員の方は次のとおりです。

会 長 猪鹿倉義則
副会長 右田 始
松田 進
南園 貢
今和泉一郎

委員

南園忠男、名ヶ迫広、中野博西操、辻薩男、中原操、牧原ユミ子、猪鹿倉秀志、鶴園末吉、田中虎一、野崎文雄、花田純哉、浪瀬幸雄、山下敏郎、表木幸六、横原徳明、右田正宮園栄、上田鉄郎、中村光郎、小椋正夫、古川静、神園浩二、福森正承、中村茂美、中野久人、小園一利、竹之内哲哉、柿迫隆志、瀬戸口良一、安楽学、袖山勝八、原田幸男、山添正人、平原良夫、上ノ原鉄

それぞれの持場で生かせ

火の用心

二月二十八日から三月十三日まで春の火災予防運動が行なわれていますが、火の用心は一年中するものです。

次の点に気をつけて下さい。

○火災の防止

- (1) ちり焼をするときは、風の強い日に安全な場所で（枯草等のない所）
- (2) 小林、原野の近くでたき火、野焼をするときは、周囲の状況、気象状況に十分注意する
- (3) たばこの投捨、寝たばこは絶対しない。

○死傷者の防止

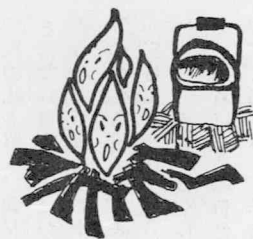
- (1) 幼児、老人、身体障害者は避難しやすい場所に就寝させましょう。
- (2) 地震や火災の際の避難方法について日頃から検討しておく

(4) プロパンガス、油ナベの取扱いは気をつけて

(5) 子供の火遊びについて家族教育を徹底しましょう。

(6) 風呂、かまど、煙突の構造を定期的に点検しよう。

(7) 枯草等火災の発生しやすい物件は排除しよう。



大隅肝属地区消防組合管内の今年二月五日現在までの火災はすでに二十八件発生し、昨年同様の十一件に比較すると、十七件増加しており、さらに火災による死者は四人（昨年同期〇人）負傷者一人（昨年同期〇人）が生じております。このことから消防組合では、火災発生非常事態を宣言して防火に努めております。住民の皆様には、先のこととに充分注意され、一件の火災も本町からは出さないように協力をお願いいたします。

国民ねんきんの現況

◎ 被 保 険 者 { 強 制 1784人
(S 54.1月末) { 任 意 195人

◎ 拠出年金受給者
532件 124,659,300円

◎ 福祉年金受給者
407件 74,268,300円



教育研修 大会開く

田代町内の先生方が一同に集まり田代の教育を語る年一回の教育研究大会が一月三十一日大原小学校を会場に開催された。分科会では各教科や領域にわかれ、それぞれのテーマについて、いかに子どもの学力を高めていくかについて真剣な討議がすすめられた。

全大会では来賓あいさつや県外研修の報告等があり今後の教育についての課題を確認し合った。

校内持久走さかん

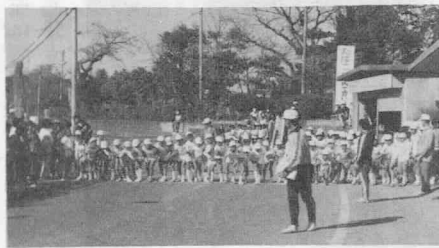
冬季スポーツの花形、長距離走が町内の各小中高등학교で行われた。

田代小では一月二十七日、大原小は二月二十四日、田代中大原中は一月二十七日、田代分校は一月二十五日、各校形式はさまざまで個人の持久走のもの、駅伝形式のものであったようだ。大原中と田代分校では健康な者全員でリレーしていく方法がとられ、応援合戦もにぎやかであったらしい。

田代町文化財 「かわごころも」 を確認

一月三十一日、県文化課による花瀬川の田代町文化財「かわごころも」および志布志町安楽川から移植した「うすかわごころも」の調査が実施された。

清流の中で白色の小さな花やつばみが確認された。一方、花瀬川上流にみられる新種の「かわごけそう」が確認され県文化課としては本格的な調査を行い、学会に発表されるもよう。



校内持久走のスタート (田代小)

芽ぶく春三月
「全国緑化運動」の月です。

小林寺流 空手道練習会

去る一月二十八日田代町中央運動場で南大隅地区の練習会が開催され、鹿屋支部からも応援にかけつけ気合の入った練習会が開催された。

田代では森園利寛さんの指導のもと心身の鍛錬と青少年の健全育成を目的に、小中高校生二十五名の会員があり、週二回の練習会が熱心に行われている。



空手練習会

ヒマワリグループを 表彰

二月十六日県社会教育大会に

昭和五十三年 度 「婦人学級」修了

麓、川原婦人学級と大原婦人学級が二月で修了した。九月開講以来種々の学習を重ね両学級で約六十名の学級生が修了証書を手にした。

恒例の郡青協主催第十一回青年駅伝大会が二月四日、田代から東串良間で実施された。本町青年団では十二月中旬から練習を重ね、必勝を期したが、残念ながら近年になく不成績に終わった。タイムは昨年の記録を四秒短縮しているものの、他町チームが強かったということか成績は次の通り

- 一位 根占
- 二位 大根占
- 三位 高山
- 四位 東串良
- 五位 田代
- 六位 串良
- 七位 吾平



よろこびのヒマワリグループ



郡青年駅伝スタート